

日時 平成17年9月14日（月）18:00～20:30

場所 尼崎市中小企業センター

出席者（委員）松本（誠）、村岡、長峯、岡田、草薙、佐々木、中川、伊藤、酒井、田村

（河川管理者）田中、渡邊、松本、前川、合田

（事務局）黒田、植田、木本

第33回運営委員会  
資料1-2

第26回流域委員会  
資料5-2

1. 第1回まちづくりWG会議の検討事項

050914 資料1の表に記載する内容について協議した。

2. 第1回まちづくりWG会議の協議結果の要点

検討結果についての概要は、以下の表のとおりであるが、要点をまとめるとつぎのとおりである。

- 1) に関する協議：計画策定の原点である将来の人口、土地利用フレーム等については総合計画、都市計画MP等ではせいぜい10年程度の予測しかされていない。また、全国的な少子高齢社会の進展、流域上流部都市人口の増加率の低下等社会経済の大きな転換期といえる。そのため20～30年、ましてや50年以上将来の予測は不可能であり、河川整備計画において「地域の将来像」に記載する内容は留意を要する。
- 2) に関する協議：これらの項目については主として総合治水WTで検討、協議する。超過洪水対策等必要に応じ適宜まちづくりWGで検討することもある。
- 3) に関する協議：武庫川カルテ（武庫川事典）の作成、議事フローC関連項目の検討、川の駅検討等引き続き作業と協議を行い、基本方針、整備計画の提案資料とする。今後の継続項目になる項目もある。
- 4) に関する協議：関連団体に関する資料、連携方策の検討など継続して検討していく。
- 5) に関する協議：アンケート調査のとりまとめを環境WGと共同で行う。

以上の作業、研究、協議を進めながら必要に応じてまちづくりWG会議を開催の上、適宜流域委員会やパ`-ミーティング`に報告し、意見交換を行う予定である。

3. 今後の課題と検討方針表

検討項目についての課題			今後の検討及び作業方針、スケジュール等			
協議内容(項目)050514 提示	状況、課題	分担	検討方向	基本方針・整備計画に活かす	付属資料として作成	今後の継続とする
武庫川の位置づけと役割に関する資料の読み込みと分析・評価、現況の課題等	・各市の総合計画、都市計画MP、阪神間都市計画等の将来予測の期間はせいぜい10年である。また、近年少子高齢社会が進行し、都市部においても人口減少が予想される。このように、流域の人口や土地利用フレームの超長期、長期的見通しは不可能な状況であると判断し、河川整備基本方針や整備計画の中で流域の将来像等項目についての記載内容は十分に吟味される必要がある。	田村	一部既存資料の追加は行うが、今以上の検討作業は行わない。したがって、本項目について流域都市、関係機関へのヒアリングはとくに行わない。	B,C 流域都市の将来像記載の仕方に留意する。 「現在は、社会経済動向、変化が激しく、長期の予測は不可能である。したがって、基本方針、整備計画は変動要因が大きな場合スムーズにローリングしていく必要がある。」といった記載を行う。		
武庫川総合治水の中で、 -1 土地利用規制等市街化区域の流出抑制策  -2 一時貯留施設整備  -3 建築、都市整備面からの超過洪水対策	・将来土地利用動向について 開発規制、既存林地保全等流出抑制策の検討 ・市街化農地、公共公益施設用地、学校、公園、民間グラウンド、駐車場等の雨水一時貯留化 ・建築用地の多目的遊水池化 災害に強い住宅地づくり、住宅群づくり、建築のピロティ化等減災化対策 ハザードマップが必要（暫定参考資料の活用）。	総合治水WT 伊藤、酒井  佐々木、岡田  岡田、田村	-1、-2については、基本的に総合治水WTの中で検討協議、提案を行っていく。下水道による貯留、合流改善等の検討も要す。 -3については地区計画での検討等対応方策案を検討する。 以上の検討にあたり必要に応じ関係機関のヒアリングを行う。	B 流域の開発抑制等 都市政策と一体となった総合治水対策について検討、提案する。 必要に応じて関係機関にヒアリングする。 B 超過洪水への理解と認識を深める。 ハザードマップとリンクした超過洪水対策案の検討と提案。		
武庫川と周辺地域の魅力づくり、特色と個性ある川づくりに向けた取り組み 歴史文化、レクリ、スポーツ需要、景観資源の活用と景観整備、川を活かし、川に向かったまちづくり等 都市やまちと武庫川の中継交流拠点、情報拠点、文化拠点としての仮称「川の駅」の提案と構想づくり等	・武庫川と沿川の公園緑地、樹林等景観資源分布、主な公共公益、教育施設分布、歴史文化資源分布、民間オープンスペース分布、旧街道、ハイキング道、水路網等を1/5000 図で整理し、分析評価し計画提案を行う。 ・県より入手し地区カルテベース図作成済み（36分割図） ・沿川の地域資源分布状況、交通アクセス条件、都市、まち側と武庫川の交流点、上中下流域の交流点、支流と本流の交流点等を調査分析し多機能交流拠点、防災拠点としての仮称「川の駅」を提案する。	草薙他まちづくりWG全員参加  田村試案図作成の武庫川カルテ草薙（尼崎、西宮）、田村（宝塚）武庫川渓谷（伊藤）三田（岡田）篠山（酒井） 随時協働して作成する	武庫川を中心とし周辺都市、農村を含めた情報資料として編集する。データ収集をワークショップで実施したり、カルテを小中学生の環境教育、まちづくり教育に活用したり、市民が散策やハイキングに利用したり（武庫川事典）として作成を目指す。 以上の検討にあたり必要に応じ関係市、関係機関のヒアリングを行う。	B,C に関する現況把握と評価 データの追加修正要 B,C「武庫川カルテ」による現地に即した実践的提案を行う。  C,D「武庫川カルテ」分析を活かして、モデル的提案を行う。 その他ハード、ソフトに関わる提案を行う。	武庫川カルテ（武庫川事典）手引き書として別途編纂していく。 今後「武庫川流域会議」等の結成に向けたツールとして活用することも視野に入れる。	今後継続して作成、追加、修正していける組織づくりを準備していく。
上流中流下流の連携策	・多様な活動組織、活動概要の整理	酒井、伊藤他	既存資料の活用と連携方策の検討	D 多様な連携組織の構築		今後流域連携を実践していく組織を準備していく。
その他	・平常流量の確保、流域の水循環 潮止め堰の見直し等 その他フローB、C、Dに関わる提案 ・以上に関わる他事例調査、資料収集 ・アンケート調査のとりまとめ	適宜 まちWGと環境WGの共同、アンケートまとめフォームを作成、 村岡	今後開催のパ`-ミーティング`等で概要を報告する。	アンケート結果の中でB,C,D項目に活かせるものは提案として採りあげる。	付属資料としてまとめるもの、今後の継続検討項目として捉えるもの等適切な対応を図る。	